

## **【総論】**

**第1章 策定にあたって**

**第2章 本市の状況**

# 第1章 策定にあたって

## 第1節 策定の趣旨

### 1 策定の目的

長岡市は、平成15年度に「ながおかヘルシープラン21（第1次健康増進計画）」を策定し、「人とひと 輝く笑顔がはぐくむ 健康なまち ながおか」の実現を目指して取り組みを進めてきました。

計画策定から10年の間、少子高齢化の急激な進展や、生活習慣病の増加、3度の市町村合併による市域の拡大など、市民をとりまく状況は大きく変動しています。

第2次ながおかヘルシープラン21は、このような変化に対応し、これまでの健康づくりの取り組みの評価と、世代ごとのありたい姿を再確認し、市民一人ひとりがそのありたい姿に向かって主体的に取り組むために策定したものです。

### 2 計画の構成

第2次ながおかヘルシープラン21は、今後の健康なまちづくりの基本方針を記載した「総論」及び具体的な取り組みを記載した「各論」で構成しています。

## 第2節 計画の位置づけと性格

### 1 計画の位置づけ

第2次ながおかヘルシープラン21は、健康増進法（平成14年法律第103号）第8条第2項に基づく計画です。長岡市総合計画を上位計画とし、関連する個別の計画とも整合を図りながら策定したものです。

また、21世紀の我が国において「全ての国民が共に支え合い、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現」と時代の変化に対応するために、国が策定した健康づくり計画「健康日本21（第2次）」の地方計画にあたります。

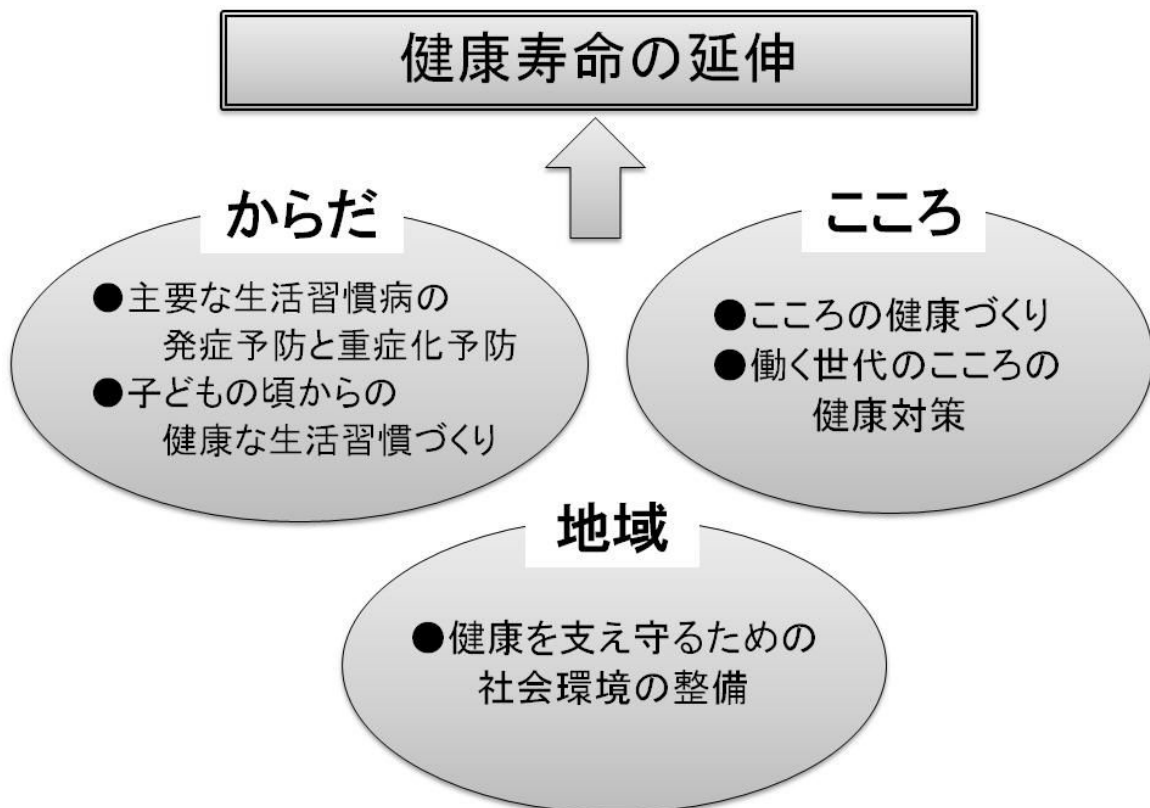
「健康日本21（第2次）」計画の基本的な方向性を重視しつつ、長岡市において今後の10年間の目指す方向性を整理しています。

## 【国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針】

21世紀のわが国において少子高齢化や疾病構造の変化が進む中で、社会環境の改善を通じて、子どもから高齢者まで全ての国民が共に支え合いながら希望や生きがいを持ち、ライフステージに応じて、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会を実現することを目指す。

参照：厚生労働省告示第四百三十号 平成24年7月10日

## 【長岡市が目指すもの】



※健康寿命：健康上の問題で日常生活が制限されることなく、生活できる期間をいう

## 2 計画の性格

第2次ながおかヘルシープラン21では年齢、性別や障がいの有無にかかわらず、市民一人ひとりが主体となって自らの健康づくりを進め、その個人の取り組みを社会全体で支援する体制づくりと環境づくりを行うこととしています。

市民が願うありたい姿の実現、QOL（生活の質）の向上に向け、市民・地域社会・行政が手を携えて取り組む目標を示すとともに、それぞれの機関・団体等が担う役割や取り組みについて整理しています。

### 【計画策定・推進の3つの視点】

健康づくりの主体は市民一人ひとりであり、個人（市民）の取り組みを社会全体で支援していく体制づくりが望まれます。

ヘルシープラン21では、以下の3つの視点に立って、計画の策定と推進を行うこととしています。

#### ● 市民参画

市民一人ひとりが主体となった健康づくりが進められるよう、市民の皆さんが参画します。

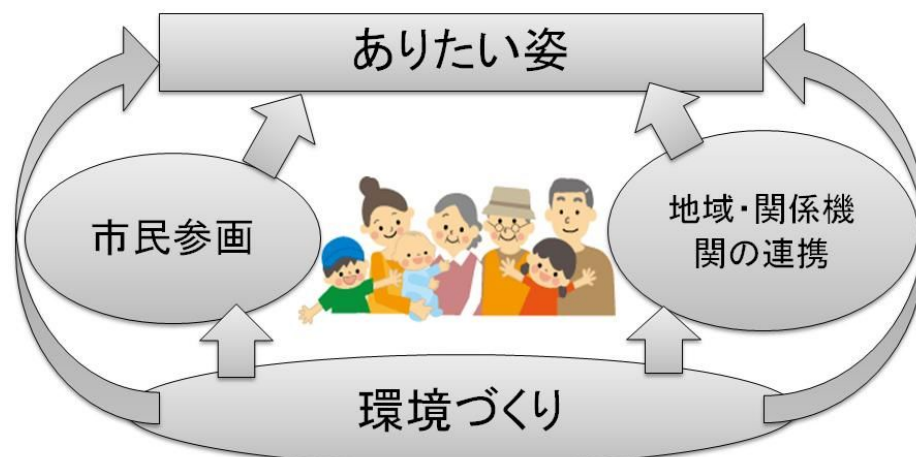
#### ● さまざまな組織や機関との連携（推進体制の整備）

健康づくりを個人から家庭、地域などへ広げていくために、地域・関係団体・行政が連携して取り組みます。

#### ● 環境づくり

市民の主体的な健康づくりを支えるための環境づくりを行います。

施設や道路、自然といった環境のほかにも地域づくりや人とのふれあい・交流、人づくりも健康づくりの重要な要素として捉えています。



### 3 主体別の役割

生涯を通じた健康づくりを進めるために、健康づくりの主体である個人や、個人を取り巻く家庭や地域社会、また個人の豊かな生活を実現するための施策を実施する行政それぞれが、健康づくりの役割を担い、健康なまちづくりに取り組むことが必要です。それぞれの役割を次のように捉えます。

#### ● 個人(市民)の役割:主体的な健康づくり

健康は自分自身の財産です。一人ひとりが、自ら健康であると感じるとともに、自ら主体的に健康づくりを行うことが必要です。また、健康づくりは一人で取り組むだけでなく、家族や仲間と一緒に楽しく取り組むことも大切です。さらに身体の健康だけでなく、自分なりの目標を持って楽しくいきいきと毎日を過ごし、人とのふれあい・交流の中から、健やかで充実した心豊かな暮らしを送ることが大切です。

#### ● 家庭の役割:個人の生活習慣を支える・応援する

家庭は食生活などの基本的な生活習慣の確立や、心のやすらぎを保つために重要な役割を持っています。家族内での豊かなコミュニケーションを図り、いきいきと健康に生活するための活力を養います。

#### ● 地域(社会)の役割:個人・家族を支える地域(社会)づくり

人は地域社会の中でさまざまな人と関わりながら暮らしています。個人が健康づくりを継続して行うためには、地域での健康づくりに関するさまざまな情報やネットワークなどが必要です。これらの個人の健康づくりを支える役割を、地域を構成するさまざまな機関や団体、施設等が協働して担うことが必要です。

町内会・学校・コミュニティセンターなどは地域活動が行われる大切な場として位置づけます。

#### ● 行政の役割:健康を支える環境づくり

個人が健康づくりを行うために必要な場や機会、情報の提供を行います。また、関係機関・団体との連携の仕組みづくりや健康なまちづくりに必要な環境を整備します。

### 第3節 第1次計画に取り組んで

第1次計画では、「人とひと 輝く笑顔が はぐくむ 健康なまち ながおか」を目指して、重点課題を定め取り組んできました。

第1次計画の評価は、多くの項目で改善が見られた一方で、変化のないもの、反対に悪化しているものもありました。

これらの10年間の取り組みの評価を第2次ながおかヘルシープラン21に反映しています。

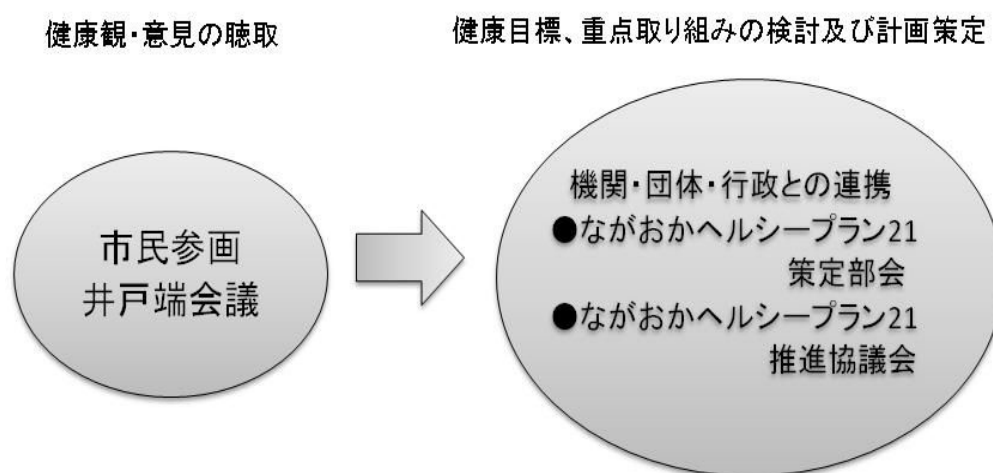
#### 【項目の評価】

	改善	変化なし	悪化	合計
乳幼児期	47(59.5%)	12(15.2%)	20(25.3%)	79
学童思春期	87(75.7%)	8(6.9%)	20(17.4%)	115
青年期	27(73.0%)	3(8.1%)	7(18.9%)	37
壮年期	17(41.5%)	3(7.3%)	21(51.2%)	41
高齢期	20(76.9%)		6(23.1%)	26
環境	11(78.6%)		3(21.4%)	14
全体	209(67.0%)	26(8.3%)	77(24.7%)	312

### 第4節 策定の体制

第2次ながおかヘルシープラン21の策定にあたり、支所地域を含む全11地域で市民参加の「健康づくり井戸端会議」を開催し、幅広く長岡市民の健康づくりに関する意見を取り入れました。

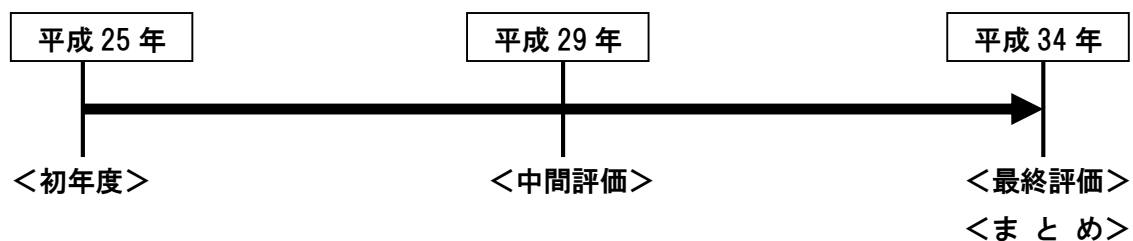
また、「ながおかヘルシープラン21策定部会」において「健康目標」や「重点取り組み」等について検討を重ね、「ながおかヘルシープラン21推進協議会」で協議・承認したものです。



## 第5節 計画の期間

この計画は平成 25 年度（2013 年）を初年度とし平成 34 年度（2022 年）を目標年度とする 10 年計画です。

なお、中間評価時期を平成 29 年度（2017 年）とし、必要に応じて計画の見直しを行いません。



## 第2章 本市の状況

### 第1節 本市の人口

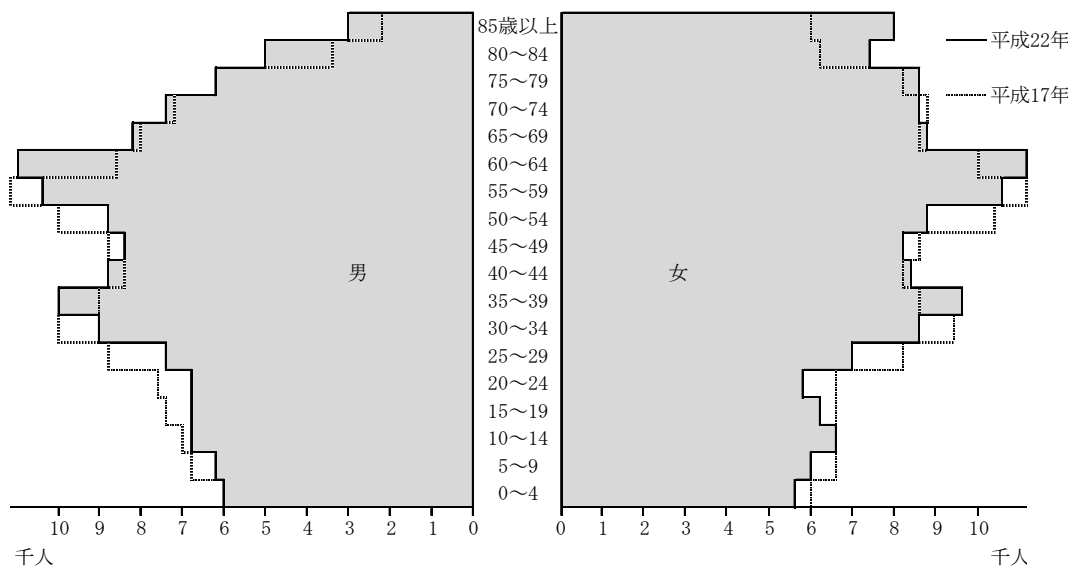
長岡市の人口は、長岡市住民基本台帳によると平成24年4月1日現在280,740人で、前年4月1日より1,359人減少しました。国勢調査結果によれば人口増加のピークは昭和45年から昭和50年で9,480人増加でしたが、平成17年から平成22年では5,783人の減少でした。

#### ■ 人口構造

年齢階級人口構成では、平成22年国勢調査結果によると60歳～64歳の第1次ベビーブーム、35～39歳の第2次ベビーブームを山として人口ピラミッドのすそが次第に狭まって、いわゆる「ひょうたん型」となっています。

平成24年4月1日現在の年齢3区别人口の構成割合は、年少人口(0～14歳)36,731人で13.0%、生産年齢人口(15～64歳)171,987人で61.3%、老年人口(65歳以上)72,022人で25.7%でした。特に老年人口の割合は、10年前に比べ5.9ポイント増加しており、超高齢社会となっています。

【長岡市の年齢階級別人口（人口ピラミッド）】



※総務省統計局「国勢調査報告」



## 第2節 本市の人口動態

### ■ 出生の動き

5年間の推移をみると、出生数は全国、県、長岡市で、減少傾向にあります。また合計特殊出生率<sup>\*</sup>は、全国は増加傾向、県は平成22年に増加し、長岡は、県、全国よりもやや高いものの、横ばいの状況です。

【出生数・出生率・合計特殊出生率の推移、全国・新潟県との比較】

区分 年	出生						合計特殊出生率		
	長岡市		新潟県		全国		長岡市	新潟県	全国
	実数 (人)	率 (人口 千対)	実数 (人)	率 (人口 千対)	実数 (人)	率 (人口 千対)			
18	2,398	8.5	18,985	7.9	1,092,674	8.7	1.45	1.37	1.32
19	2,330	8.3	18,724	7.8	1,089,818	8.6	1.44	1.37	1.34
20	2,332	8.3	18,388	7.7	1,091,156	8.7	1.48	1.37	1.37
21	2,203	7.9	17,948	7.6	1,070,035	8.5	1.44	1.37	1.37
22	2,239	7.9	18,083	7.7	1,071,304	8.5	1.43	1.43	1.39

資料：新潟県福祉保健部 平成23年福祉保健年報

**注 釈** ※合計特殊出生率（15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子どもの数）

### ■ 死亡の動き

平成22年の死亡数は、2,966人で前年より161人増加しました。人口千人に対する死亡率は10.5で前年より0.5ポイント上回っており、新潟県よりも低いものの、全国より高い傾向で推移しています。

【死亡数・死亡率の推移 全国・新潟県との比較】

区分 年	死亡					
	長岡市		新潟県		全国	
	実数 (人)	率 (人口 千対)	実数 (人)	率 (人口 千対)	実数 (人)	率 (人口 千対)
18	2,639	9.3	23,939	9.9	1,084,450	8.6
19	2,843	10.1	25,126	10.5	1,108,334	8.8
20	2,778	9.9	24,889	10.5	1,142,407	9.1
21	2,805	10.0	25,148	10.6	1,141,865	9.1
22	2,966	10.5	26,618	11.3	1,197,012	9.5

資料：新潟県福祉保健部 平成23年福祉保健年報

## ■ 死亡原因別順位

主な死亡原因では、悪性新生物、脳血管疾患、心疾患が全死因の約 60%を占め、がん(悪性新生物)が 29.9%と最も高くなっています。主な死亡原因 SMR\*平成 22 年値によれば、悪性新生物(男)は全国を上回っていますが、新潟県よりは下回っています。悪性新生物(女)は全国、新潟県を下回っています。

心疾患(男)は、全国、新潟県を上回っています。心疾患(女)は、全国を下回っていますが、新潟県より上回っています。

脳血管疾患は男女とも全国、新潟県を上回っています。

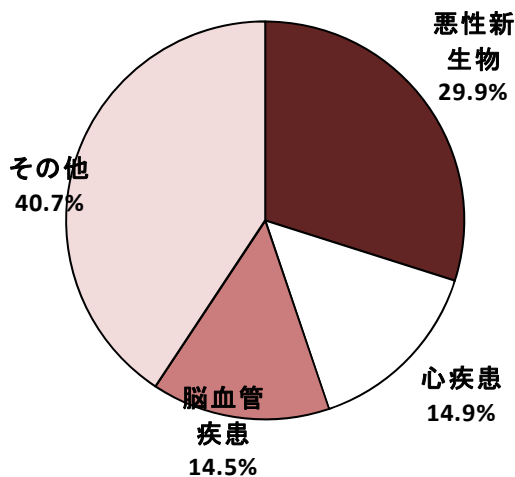
### 【長岡市の死亡原因別順位の推移】

	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
平成18年	悪性新生物	836	脳血管疾患	416	心疾患	393	肺炎	195	不慮の事故 心不全	107
平成19年	悪性新生物	838	心疾患	454	脳血管疾患	400	肺炎	247	不慮の事故	147
平成20年	悪性新生物	877	心疾患	435	脳血管疾患	375	肺炎	244	不慮の事故	110
平成21年	悪性新生物	893	心疾患	459	脳血管疾患	384	肺炎	215	不慮の事故	101
平成22年	悪性新生物	887	心疾患	441	脳血管疾患	431	肺炎	248	老衰	124

資料：新潟県福祉保健部 平成 23 年福祉保健年報

### 【長岡市の死亡原因内訳】

(平成 22 年)



### 【主な死亡原因 SMR】

(平成 22 年)

		長岡市	新潟県
悪性新生物	男	101.4	133.2
	女	94.3	96.1
心疾患	男	105.4	95.3
	女	97.1	87.1
脳血管疾患	男	127.1	117.3
	女	130.3	122.1

資料：新潟県福祉保健部 平成 23 年福祉保健年報

注釈 ※SMR(標準化死亡率:死亡率を比較する際に年齢構成を考慮した指標であり、全国を 100とした場合の比として表す)